文京区アカデミー推進計画策定協議会
第２回生涯学習分科会

日時：平成２２年５月１８日
午後６：３０～８：３０
場所：文京シビックセンター２１階　２１０１会議室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

文京区アカデミー推進計画策定協議会第２回生涯学習分科会会議録

（敬称略）

「出席委員」

座　長	山崎　一穎
委　員	佐藤　成臣
委　員	桝田　慶輝
委　員	黒木　美芳
委　員	渡辺　みゆき
委　員	八木　　茂

「事務局」

アカデミー推進部アカデミー推進課	八木　　茂
アカデミー推進部アカデミー推進課	内藤　浩司
アカデミー推進部アカデミー推進課	佐藤　祐司
株式会社富士通総研	稲永　和年
株式会社富士通総研	瀬戸　香織

○山崎座長：それでは時間になりましたので、アカデミー推進計画策定協議会の生涯学習分科会を開催させて頂きたいと思います。第２回目になるわけですが、前回は雨でしたけどもきょうはいい天気ですから、一つ頭をクリアにして意見交換ができればと思っております。

○事務局：それでは事務局から本日の会議の出席状況につきましてご報告いたします。本日は清水委員と村松委員、２名から欠席の連絡が入ってございます。

次に、本日の配付資料の確認をお願いいたします。まず、事前に郵送でお送りいたしました第２回生涯学習分科会の次第等、本日お持ちでいらっしゃらない方には、こちらからお渡ししたいと思いますが、いかがでしょうか。また、本日席上配付資料ですけれども、座席表とそれからご意見シートをお配りしてございます。

続きまして、資料のご説明をさせて頂きます。本日の議事進行につきましては、事前にお配りいたしました次第に沿って進めさせて頂きたいと思います。次第を１枚おめくり頂きまして、第２回分科会の進め方についての資料をごらん頂きたいと思います。まずⅠ番目の第２回分科会のテーマでございます。本日は２点でございます。１点目は（１）番のアカデミー推進計画にかかわる文京区の特徴や課題を確認、再検討するということでございます。それからもう１点は、（２）番のアカデミー推進計画の分野別計画において取り組んでいく方向性を検討するということでございます。続きまして、大きなⅡ番の本日のプログラムでございますが、こちらは次第と重複するものがございますので、この場では説明を割愛させて頂きます。それではもう１枚おめくりを頂きたいと思います。資料のⅢ番、文京区の特徴や課題の再検討および解決の方向性の検討でございます。このあとで前回に引き続きまして、皆さまにおかれましては、ステップ１から４の順番に従いまして作業、あるいは議論をして頂きます。事務局からの説明は以上でございます。

○山崎座長：まず３ページ目の資料第５号、それについてこれから検討していくことになると思いますけれども、この間皆さん方に書いて頂いた表１、生涯学習に関する特色や課題について出された意見です。それをさらに再整理したものが、資料第６号です。

○事務局：参考までに再整理させて頂きました。

○山崎座長：それでまず再整理をしたところで、生涯学習に関する特徴や課題について、もう一度確認と、あるいはご意見の補足ないし訂正がございましたら、ここでこの問題について 30 分ぐらい時間を取って、7 時 10 分ぐらいまでの間に今までに出された意見、あるいは再整理をしたところを踏まえて、ご意見を賜ればと思います。

○事務局：その前に、この資料第５号、第６号を事務局のほうから説明させていたければと思います。

○事務局:資料第５号、6 号について振り返りということでご説明をさせて頂きたいと思います。前回、皆さまには課題の洗い出しということで、普段皆さまがお過ごしの中で感じていらっしゃること、課題だというふうに感じていらっしゃることであるとか、その背景になるのではないかというところでご意見を頂戴したところでございます。先週、その場でまとめをして、それを書き起こしたものが第５号です。それをさらに事務局側のほうで再整理をしたものが第６号という扱いになっておるのですけれども、第６号については皆さまに本日初めてお出しするものですので、あくまでも参考ということでご覧頂ければと思っております。したがいまして、ご説明については第５号の資料を使いまして、前回の振り返りをしたいと思っております。

前回出た意見としましては、まずどのような区民がいるかというところで、区民にはコスモポリタンが多く地域へのこだわりが薄いであるとか、学び人が多い。有能な団塊世代がいる。団塊世代を活用できていないといったご意見がありました。また、学習メニューの中身というところなのですけれども、これについては文京区ならではの生涯学習というのは何なのかというご意見

であるとか、大学プロデュース講座と区民プロデュース講座のギャップが大きいといった問題点、あとは講座の質が問われている。メニュー開発ができていないといったご意見もありました。また、メニューの質が問われているようであるとか、開発できていないといった問題点がある一方で、地域文化に根付いた学習メニューがあるであるとか、生涯学習メニューが充実しているなど、今の状態でもいいところがあるのではないかといったご意見も頂戴をしております。

また、場所についてもご意見を頂きました。一つには、区の学習の場所が多くあるといった良い点がある一方、次のところでは生涯学習を推進するための図書館の開放が十分ではないであるとか、施設が足りないというご意見も頂戴しております。

裏面４ページに行きまして、遊休施設があるであるとか、場所がないために休眠しているサークルも多いといった問題点も頂戴しております。

その次にある計画推進上の課題というところでは、協働という概念が不統一のまま独り歩きしているというご意見を頂戴しましたので、これは計画を推進していく上での課題という点ではないかと思いまして、こういったタイトルを付けております。

その下、連携、ネットワークというところなのですけれども、こちらは大学であるとか、図書館に関連する意見を頂戴しておりました。大学との相互協力の実態が見えない。PR 不足ではないかといったご意見であるとか、区立の図書館と大学図書館との相互交流がないといったご意見がありました。

次に情報提供のところでは、ホームページが見えにくい、分かりにくい、「こらびっと」の活用が必要ではないかといったご意見、まだまだ情報提供については不足している点が多いのではないかというご意見があったかと思います。

その下にあるのが相談という項目ですけれども、こちらでは学習相談窓口の設置であるとか、区民へのサービス提供者側の区側との役割目標というのがあるのですけども、区民へのサービス窓口を設置していく必要があるのではないかというご意見がありました。

その下、人材活用では、区の中で独自の資格、生涯学習司であるとか、インタープリターがありますが、その取得後の仕事がはっきりしていない。活用ができていないというご意見がありました。また、学習成果が地域へ還元されていない、還元が必要だというご意見もありました。皆さんから頂いた、ポストイットに書いて頂いたご意見は以上のような内容であったかと思います。

表の２の下にありますのは、皆さんのディスカッションして頂いた中で出た意見です。大枠で２点あります。ひとつは、生涯学習の目的とは何かという項目、２つめは、生涯学習に参加していない人、参加したいけれども参加できない人、もしかしたら、情報があれば来られるかもしれない人たちがいる、そういう人たちをどのようにその場所に引っ張り出してくるかというところで皆さんにご意見を頂戴していたのが表２のところでまとめた内容になっております。前回の振り返りは以上です。

○山崎座長：事務局のほうでそのようにまとめて下さったわけですけれども、本来ならば前回ステップ２まで終わっていなければならないところが、ステップ２の入り口のところで終わっている。その入り口のところが表２のところになっているということです。今日は表１のところに、もう少し付け加えたり、加筆修正をする必要があったりするところがあれば、ご意見を承って、そして再整理のところを完成させておいて、あとの３分の２の時間で、表２の「課題に対する解決の方向性」の洗い出しと再整理のところまで行ければいいだろう、そのように進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。自由にご発言頂ければと思います。

○佐藤委員：今の先生のお話で、足りないところというのを今振り返ってみたのですけれども、全部区民の問題と施設の問題と制度の問題なのですけれども、区役所職員の問題が特にこれ書かれてないと思いますので、区役所職員の問題を項目として入れる必要があるのではないかと思います。背景のお話もしたほうがいいですか。

○山崎座長：具体的にあれば。

○佐藤委員：その背景なのですけれども、結局ここで幾つか出ている中で、私も自宅でまとめてみました。皆さんの意見って基本的に××が足りないということと、××はまだ達成できていないということの２つに何となく集約できるかなと思いました。足りないのは分かるのですけれども、できていない、私は阻害というふうに書いたのですけれども、阻害している要因の１つが区役所職員じゃないかなと思います。つまり、問題点の指摘があるにもかかわらず直っていないということは、誰かが足を引っ張っているというようなかたちがあると思うので、それはひょっとしたら制度かもしれないですけれども、区役所の職員の理解がなくて、例えば活躍しようという人に対して制約で止めていくであるとか、施設をつくろうとしていてもお互いの権利争いでもって邪魔をしていることがあるかもしれないので、そのへんについてわれわれ住民も頑張るのだけれども、区役所の側としてもそのへんを少し積極的に直していくという制度が必要ではないかなというのをベースとして考えたものですから、職員のバックアップ体制みたいなものも項目として必要ではないかと思いました。

○山崎座長：これは当然のことながら行政と区民と連携が取れていないと、こういう講座というのはうまくいきませんから、区民が主体的にという名のものに、どうしても放り投げてしまうというところがありますので、今までの学習活動の中で特に佐藤さんが体験されてきたことだろうと思います。ただ、人なのか、制度なのかという問題はある。

○佐藤委員：本当にそう思います。

○黒木委員：それはいずれ全部につながるのですから、最後の方に持っていってもいいと思うのです、そういうことが必要ですよと、考える必要ありますよということで、それ以外にまだありますかというところでやったほうがいいのではないですか。

○山崎座長：それも１つです。自由に発言して下さって結構です。

○黒木委員：これだけまとめる中で何か考えが出ているのではないですか、こういう方向、ああいう方向って、そうしたらわれわれも言いますよ。

○山崎座長：まず、われわれのほうが先やらないと。

○黒木委員：そうすると先生に伺いたいのですけど、どっちの方にこれを持っていきたいのですか。

○山崎座長：僕はまったく自由で持っていません。

○黒木委員：そうするとフラフラしちゃいますよ。

○山崎座長：それはそうならないはずですよ。

○黒木委員：そうですか。

○山崎座長：それだけの主体性、経験をこの間皆さん語ったじゃないですか、僕はそれを信じているのです。

○黒木委員：でも時間内では振れますね。

○山崎座長：時間内ということはあるかもしれない。

○黒木委員：分かりました。それで提案ですけど、もっと不足している部分を出した方がいいのではないですか。

○山崎座長：ですから、黒木さんが考えている、今佐藤さんは行政も１つ欠落しているという指摘があったのですが。

○黒木委員：それは関連していますからいいです。

○山崎座長：だから黒木さんが今一番。

○黒木委員：私が申し上げたいのは、生涯学習という枠をどの辺のところで考えているかということをもう一度やらなければいけないと思っています。例えば、今５つの分野に分かれて検討していますけれども、いずれ関係するわけです。国際交流だとか、交流なんて人対人っていうのは勉強の場でしょう。もう１つ、生涯学習というのは体験学習を通しての学習というのが重要な部分でしょう。だから単に講座だけじゃないわけですね。それで今は講座だけにするかどうかとか、そういうところを考えて議論しないと、あっち飛んだり、こっち飛んだりして、どこへ行くのですかってなってしまいます。

○山崎座長：僕はいろいろ提言があっていいんではないか、そんなに今からあれしなくてもいいんだと、それはどっちみち全体会議をやらざるを得ないわけですから。

○黒木委員：区としてはいろんな自主学習の発表の場ができているのです。どうして私たちはそれを上げないのかなと思っているのですけどね、コーラスの発表もあるし、踊りの発表もあるし、絵の発表もやるし、俳句やなんかの発表もやっているし、それでこんな文の京の小説ね、発表の場をつくったらいいと思うのです。そういう点を含めるのか、含めないのかというのを今考えますね。

○佐藤委員：発表の場は黒木さんがおっしゃるように私はあると思うのですけども、それがいつやっているかというのは全然分からないのです。

○黒木委員：だからそれは生涯学習として考えているのかどうかによって、単に引き継いでやっているだけだったら、分野の外でやっていることになる、だから分かんないのです。

○佐藤委員：それは私は広報が下手だからだと思います。つまり見えるような広報を作ってくれないものですから、いつまでたっても分からないわけです。例えば大きなチラシがありますよね、それは区役所に行かなければ取りに行けないというようなことがあるから分からないですし、ホームページを見てもどこに載っているか全然分かんないような状態になっているから理解しにくいのです。

○黒木委員：それは生涯学習として抑えられてないから、勝手に発表しているだけっていうことになっちゃうから分かんないのだと思うのです。だからそれは生涯学習課の線なのか、アカデミー推進の部分なのか。

○八木委員：基本構想を元に制約というか、基本構想のもとで今回のプランを立てましょうという話の中で、基本構想の方ではまさにアウトプットする、学んだことを発表する場をつくりましょうといっていますので、私たちはそれも一つの視野に入れて言及していくべきだろうというのは事務方としては思うところです。あとはやっているところが分からないとか、それはいろんな

局面における広報、これはもう永遠の課題で、どこまでいっても常に大変だろうと思いますけども、それは常に改善をして、常に募集から継続して、あと発表してという、そういう一連のことをすべてうまくやっていかなければいけないというか、そのアイディアというか、どうしたらそれがうまくできていくのかということは常に考えていきたいと思っています。

○山崎座長：今出ていた、黒木さんの発表の場というのがこの中で欠落しているということを入れてもらって、佐藤さんのそれをどうやって PR していくかということも十分やれてないかもしれないということを入れておいてください。

○八木委員：発表の場があるけど、あまり利用されていないという。

○黒木委員：発表する人たちだけが知っていて。

○八木委員：発表するのを見る人があまりいないという、そのへんの意味合いですか。

○黒木委員：せいぜいお友達しか行ってないということで、結局伝わってないというのにつながるんです。

○八木委員：仲間内だけの発表の場になっていると、そういう趣旨ですか。

○佐藤委員：でも発表の場そのものが私は足らないと思います。例えばアカデミー湯島でお祭りをやっているかっていうと、やっていません、アカデミー向丘でやっているのだけれども、普通だったら各生涯学習館ごとにお祭りをやってもいいと思うのです。それは出来上がらない場合については、行政が音頭を取ってうまくくみ上げていく必要があってもいいのではないかと思うのですけども、そこは自主性にお任せしているから、向丘のように何年も、何年もやっているところもあれば、湯島のように全然やっていないところもあるという、この格差は私はおかしいと思います。

○黒木委員：それはばらついているとか、やっていないところはやっていないって、そういうのを出しておきましょう。どうするのかというのは、われわれ山ほどあるのです、どうしたらいいかっていうアイディアは出せるのです。だからそういうのを列挙しましょう。

○桝田委員：本来今アカデミーの生涯学習の中でのサークルっていうのですか、枠組みの中でやっている場合と、先ほどおっしゃったのは、それとは違ったサークルで立ち上げてやっているということで、それが生涯学習の枠組みの中ではないのですよね、区としてはもっと広い。

○黒木委員：ところが生涯学習といったら、財団アカデミーがあるから、あそこだけが生涯学習ってみんな考えちゃう。あれが障害なのですよ、今、もっと広いのですよ、生涯学習。その中で行政絡み、それから住民と協力できるかということをつくらないと、結局今までどおり財団に何やってもらいましょうということになってしまう。

○桝田委員：それは財団だけではなくて、区の中の生涯学習という問題と。

○黒木委員：だから教育委員会も入れたらいい。

○桝田委員：それ以外の厚生労働省から出てくるものとか、それによって末端はいろいろ活動していますからね。

○黒木委員：ここは縦割りで行くか、横軸を通すかでしょう。

○桝田委員：問題なのは縦割りの文化、そうじゃなくて、生涯学習をもう少し。

○黒木委員：そういう話をしていないから、した方がいいという。

○桝田委員：今回はアカデミーという枠組みになったのですけども、本当は。

○山崎座長：ただ、そのときに一番問題になるのは、例えば踊りの団体があって、個人がなかなか入っていけない。そういう問題が実はあるのだろう。生涯学習のスパンを広くとる。そこのところをどううまくコミットできるのか。

○黒木委員：それをいうと、どんどん受け入れてくれる団体もあるし、つぶれていくところもあるんです。だからそれらは行政がいちいち面倒見きれるかというのは、また別問題として、ただ、区民の中でそういうことに手を貸す人も出てくるかもしれないでしょう。だからそういう問題があります、こういう分野もちょっと挙げておきましょうということが大事じゃないですか。やり方はいろいろあるし、すぐできるかどうかは後にしましてもね。

○佐藤委員：赤字の部分でどういう区民が出ているかではなく、中身って、あれたぶんタイトルだと思うのですけど、あれを見ていると足りないなと思ったのは、黒木さんの意見がすごいヒントになったのですけども、支援っていうのが少し足りない、項目としては出てないという感じがしますね。

○黒木委員：だからあの中からそういうのが出るかなということをね。

○山崎座長：それから佐藤さんが最初に言った行政の問題も。

○佐藤委員：それは支援の中に入るかもしれないですね。

○桝田委員：サークルが充実されているということで、はじめての人が入りにくいんですって。

○黒木委員：一般にはそうですよ。

○桝田委員：そういう知識とか、体験をするというのがアカデミーの入り口であってもいいと思うのです。

○黒木委員：だからそういう位置付けにするかどうかというのは、その後考えればいいわけでしょう。

○佐藤委員：例えばリーダーを支援するというような講座を仮に組むということになれば十分な支援ですね。そうすれば受け入れるっていうスキームになりますね。

○黒木委員：僕はそれを今考えて、今苦労しているサークルのリーダーね。

○佐藤委員：それは黒木さん、さっきお話ししたけど、各論に入っちゃうから別としても、そういう部分ですよね。

○事務局：今リーダーへの支援とありましたが、それだけですか。

○佐藤委員：桝田さんが言われていたのですけども、団体が新しい人を受け入れられないというのは、たぶん団体が新しい人を受け入れるノウハウを持ってないからだと思うのですよ。だからそういう人たちを受け入れられるノウハウを支援として教えてあげるわけですよ、リーダー研修なんて言葉があると思うのですけども、そうすれば新しい人がその団体に入りやすくなるのではないのかなっていうことです。

○黒木委員：やっぱりどこかに相談したいわけですよ、直接行ったら怖くてしょうがないでしょう。
○渡辺委員：窓口がアカデミーの中にあったりして、区の方がというよりは、区民がそこにいて区民の対応をするみたいなことができれば。

○黒木委員：橋渡ししてやるとか。

○渡辺委員：壁が薄くなるかもしれないですね。

○佐藤委員：結局それは各論になっちゃうのですけど、地域アカデミーのところに入っていいのですかっていうと、地域アカデミーのほうでは、ここでは教室が一杯いっぱいだし、学習司のために部屋を割くことができません、それがさっき言っていた阻害要因です。すぐ駄目だって言ってくるわけだから、今渡辺さんが言ったようなことをやりたくても邪魔をされちゃうわけですよね。

○黒木委員：それは仕組みをつくる話だから、その後で。やれることはたくさんあるのだけど、その前に問題を偏らせないようにしておいた方がいい。

○山崎座長：とにかく出しておいて。

○桝田委員：先般開催の一日体験フェアのときにご相談くださいというコーナーでの相談で、どういう勉強をしたいかという人もいらっしゃいました。サークルの人は、私ちょっと困っているという人、あるいは講座を持ちたいという、そういう相談とか、いろいろな相談がありました。

○事務局：もう１点、先ほど発表の場というお話がありましたけど、どうして発表が必要なのか。

○桝田委員：発表するという場がないと、やっているというだけでは物足りないのです。そこまでレベルが上がるのですよね。

○佐藤委員：成果の還元というか、基本的に欲求じゃないのですか、自分がここまでできたということを人に見せることによって、また新たな学びをしてみたいな。

○黒木委員：欲求というより、発表することで学習が活性していくのです。

○佐藤委員：向上していくという感じなのですか。

○渡辺委員：サークルも活性化しますよね。

○佐藤委員：なるほどね、活性化の一助としての発表。

○山崎座長：確認にもなるのですよね。

○佐藤委員：そうですね、やってきたことの。

○黒木委員：個人の成長につながる。

○桝田委員：モチベーションだけじゃなくて。

○渡辺委員：そこで新規会員募集もできる。

○佐藤委員：なるほど、広がりも出るという感じですね。

○黒木委員：だからフェアでやったような、あれも確かに発表で PR かもしれないけど、あれ自体が成長しているわけですよ、出た人たちは。そういう理解をしないと。

○佐藤委員：また新たな項目として、表彰というのは入れるべきなのですか、ちょっとここは私分からないのです、いろんなこと聞いてみたいと思うのですけど。

○黒木委員：表彰をやると、文学賞じゃないけど、極端に表彰しちゃって、その下で頑張っている人たちを無視しちゃうようなことになる。あれは外に対しては、他区だとか、他県に対してはいいかもしれないけど。

○佐藤委員：成果を認める何かってないですかね。

○黒木委員：仲間が認めるためには、発表会が一つなのですよ。

○山崎座長：賞の出し方が問題なのです。頑張っているで賞とか、そういう１等、２等じゃなくて、今私の学校で高校生の意見発表会をやっているのですけど、それはアイディア賞とか、いろんなそういう賞を。

○黒木委員：その表彰の仕方も考えられますね、いろいろと。

○山崎座長：ちょっと工夫すると違ってくるかもしれない。

○渡辺委員：継続して何年以上のサークルは何か色を付けるじゃないですけど、何かそういうのがあってもいいですよね。

○佐藤委員：民生委員を何年も続けると区から表彰されるのですけど、生涯学習を何年続けても表彰されないとかっていうのは、ちょっと変だよなみたいなのがあると思うのですけれども、何かあると一つの生きがいみたいなものになるのではないのかなんて気が一瞬したものですから。

○黒木委員：小さな意味では、コーラスでも、習字でも何でもいいですが、年に一度やっているお祭り、あれに出すのが意欲付けになっている、あれは表彰の一種ですよ、ああいうリワード（褒美）でもいいのですよ。

○山崎座長：お母さんたちが子どもに読み聞かせをやっているでしょう、あの読み聞かせをズーッと大人のところまで引っ張って、つまりそういう講座みたいなものをね。

○黒木委員：今やっていますよ、読み聞かせね。

○山崎座長：だから読むのはあるのだけど、全体にお年寄りのところまで流して、それを一本化して、うまくつないでいくと。つまり文京区というものは、これはうちだけじゃなくて、文京学って出ましたよね。例えば私が国際交流にもし入っていたとすれば、文京区からどんなお土産を持たせてあげるのということを考えるわけですよ、すると何があるのだろうと。例えば食べ物だったら何があるだろう。そういうことを国際交流でも考えてもらわないとこれは困る。こちらでは文京の、例えば成り立ちとか、まちの歴史とかっていうものがきちんと学習できる、そういう基盤が片方にあり、そんなことを考えていくうちに、お年寄りにいろんなことを聞くのが一番いいだろう。実はそれが学校教育に一番ほしいのです、ところがそれが切れている。

○黒木委員：お年寄りの出番をつくって下さいよ。

○山崎座長：でも、お年寄りなら誰でもいいってわけにいかない、そこのところは難しいのです。

○黒木委員：それは確かに話しができるかどうかあるからね。

○山崎座長：ただ、そういうことがあってもいいのではないか。

○渡辺委員：情報提供のところに戻るかもしれないのですが、そういう課を越えたアカデミー、生涯学習というのがどこまでの範囲かってまたなっちゃうのですけれども、子育て支援みたいなところがいい講座をやっていらっしゃることがあるのです。でもそういう情報がアカデミーのほうでは全然網羅されてないというか、区民にとってはどこが主催していようが関係ないのです。自分のほしい講座を、例えばホームページを見たら、何課でやっていますって横に書いてあればそこに問い合わせができるわけですから、何か一覧で区がやっている、どこの課であろうと１つのページで見られるようなシステムがほしいなって思うのですけど。

○黒木委員：僕らもどんどん情報を流しているのだけど、だんだんできてくると思うけど、それをもっと伝わるようにしなければ、ありますということが伝わるように。

○渡辺委員：黒木さんがおっしゃったように、どうも財団のアカデミーだけの状況に。

○黒木委員：財団アカデミー、それは意識ない、まだ区から頼んでないから。

○渡辺委員：アカデミー推進課の方で音頭を取って頂くとか、課を越えたものがあればいいなと思います。

○山崎座長：やっぱりどうしても縦割りになっていますよね。

○佐藤委員：駒込病院に親族が入院したら、向こうもいい講座がいっぱいあるのです、それも何と無料で聞かせてくれる。ただ、駒込病院に行かなければ分かんないっていうのがしゃくです。都立の病院なのだからって通過されているのですけど。

○黒木委員：病院だとか、いろんな団体はね。

○佐藤委員：ありますよね。

○黒木委員：どこかのスポンサーが付いていい講座出しているのです。

○佐藤委員：聞きたいのだよな。

○黒木委員：手に入らないよね。

○佐藤委員：入らないですね、どうやって手に入れればいいのだろうと思って、悔しいですよね、あんないい講座をやっていて。

○黒木委員：これはわれわれの仕事です。区と協力してやっていけばいいと思う。

○佐藤委員：あと場所の項目に入ってしまうのかもしれないんですけれども、教材というか、器具というか、ああいうものについて少し項目入れてもいいのかなと思います。今は学習室って古いタイプの VTR とか使ってますでしょう、ああいうふうな器具の交換。まだそれでも学習室にはそろっているのですけども、ほかのところなんてプロジェクターもなかったりするわけです。そういうところというのは場所に付帯するものなのかもしれないですけれども。

○黒木委員：確かに使わせて傷ついたり、やりっ放しにされるのは、管理人の人たちは嫌だっていうのは分かるけど。かといってわれわれがない機械を持ち込んでつないでいいですかって、つながせてもらえないというのは、かといって毎回新しいものを買ってくださいというのも、ある時期、ある時期待たなきゃならないのは分かるけどね。

○佐藤委員：まだ古い OHP みたいのが残っているのではないですか、ああいうものこそさっさと片付けちゃってもいいのではないかと思うのですけどね。

○黒木委員：ところで文京区は「IT（情報技術）人材育成特区」になっていたのだっけ？　今もなっているの？　区が 40～50 台買い込んで、あの機械どこいっちゃうのだろうっていう話があるのだよ、区民の中で、だから今度使わせてもらおうと思っている。

○佐藤委員：昔は５階にもあったのですけどね、いっぱいパソコンが、あれなくなっちゃって。

○山崎座長：どうですか、あとはもうだいたいいいですか。

○黒木委員：仕組みの話はいつかするのでしょう、いずれ。

○山崎座長：今度は、この問題に対してどう対応していくかということです。その解決というか、それに対する提言をしていかなければならないだろうと思います。今度は皆さん方にこれをおのおの書いてもらうというかたちを取るだろうと思いますけども、一応今われわれが自由に意見を出したところで、そこをもう少し整理をしてくれますか。われわれがアトランダムに言ったものですから、少し事務局のほうで、大きな項目でいうと、さっき出た支援ということになりますか、１つは。

○事務局：まだ分けきれていないところもあるのですけれども、今皆さんから出して頂いたご意見を大まかに分けてみました。議論の取っ掛かりのところでは、行政の体制にかかわるところで、区の職員の方々に対する役割についての言及がないのではないかと、区民と協働で行うのであれば、役所のほうの役割も明確にするべきであるだろうという話がありますので、計画の中でもそれについても言及をしようと、また職員に対してのバックアップをすることで区民と連携が進むということも示す必要があるだろうというご意見があったかと思います。

　その次にお話があったのが、成果の発表の場のお話だったかと思います。今場はあるけれども、それが知られていないと、やっていても見に来るのは内輪だけだと、友人であるとか、団体メン

バーだけであるとか、あるのに知られていないという意見がありました。また一方では発表の場、そもそもそれ自体が少ないというご意見もありました。例えば地域でばらつきがあると、向丘のほうは一生懸命やっているのに、それ以外のところはまだまだ足りないのではないか、場所自体がないのではないかというお話がありました。

あとは何で発表の場が必要なのかというところで、皆さんからご意見を頂いたのですけれども、活動しているからやっているだけでは物足りないと、皆さんの前で成果を見せたい、そういうのがモチベーションの維持であるとか、あとはサークル自体、団体自体の活性化にも必要なことではないかというご意見がありました。また、成果を地域に還元するということもあるというご意見もありました。あとは仲間を認める一つの機会が発表の場であるとか、表彰の仕方の一つとしてこういった成果発表もあるのではないかというご意見があったかと思います。

あとは生涯学習イコール財団法人文京アカデミーというイメージがどうしてもあるのではないかというところで、財団だけに頼らないような運営の仕方というのも考えていく必要があるのではないというご意見があったかと思います。

あとは新たな参加者を、新規の加入者が入りやすいような環境をどうつくっていくかというところで、出来上がっている団体に個人としてどうしても行きにくいと、そういった方たちがまず来られるように、来やすいようにするということが一つ。もう一つは団体側にも新規の加入者を受け入れられるような体制、新しい人が入ってきたときに皆さんが受け止められるような、そういったサポート、具体的にはリーダー研修などにどう対応するかといったところでの支援、受け入れられるようにする団体の方での支援が必要ではないかというお話がありました。

あとは情報提供のところで、子育て支援課のところはホームページが見やすかったという事例があったかと思ったのですけれども。

○八木委員：見やすいというわけではなく、そういう情報も一緒に取りたいと。

○事務局：なるほど。そうすると例えばホームページを見たときに、どこの課に行けばそれに当たれるかといったひも付けも含めて。

○渡辺委員：全部が同じページで、どこの課でやっているかは別としても、一回で見られる。

○佐藤委員：講座一覧があれば、クリックしたらそのページに飛んでいくような感じですよね。

○事務局：なるほど。そういったところで網羅的に情報が把握できるようなページがあったらいいなというご意見がありました。あとは具体的なところで、駒込病院でいい講座があるにもかかわらず、そこに行かないと分からないという状況があるので、分かりやすい情報提供の体制であるとか、ページ、紙面であるとか、そういったものを整えるというところがまだ前回からは抜けているところとしてあげられるかと思います。

○山崎座長：次の今日の２番目の課題のところで、今まで出された課題、今日の第５号議案の表１のところと、６号議案の表の１のところになりますけれども、その表の１と、それから今事務局が説明してくれた、そこのところをにらみながら、こういう課題に対してわれわれはどんな解決方法が見いだせるのか、あるいはどういうふうにしたらそういう問題点を乗り越えられるのかという、そのような提言を、この黄色いカードへ書いていって下さい。

○黒木委員：そちらの問題に入る前にもう一つですか。生涯学習を考えたときに、いい講座を聞いたり、いいものに触れることが勉強なのです。そうするとアカデミーでは、大ホールでいろんなイベントやるわけです、今年は派手にやっているわけですけれども、あのあたりをもっといいものにしないと、という問題があるのではないですか。

○山崎座長：ですから、問題設定を、つまりその講座をいったい誰が、どこで、どういうふうに組んでいくのか。

○黒木委員：大ホールの出し物は、かなりの人が心してやらないと、ただ、形だけやったってことになってしまうのです。講座だってそうですし、サークルだってそうなのです。しっかりした人がやればサークルは活発でしょう。いい企画を立ててちゃんとしたことやればでしょう。大ホールを使うにあたっても、役者を選んだり、出し物選んだりして、あちらがいいって言っているからそれでやってくださいっていう。違う、受ける側はそういうのを期待してないかもしれない、やる側はそうしたいかもしれないけど、受ける側はそうじゃない。

○山崎座長：そこは難しくて、また。

○黒木委員：だからそこは大変。だから外注しても、なまじっかな外注じゃ、形だけやっちゃいますっていうことになるでしょう、やられちゃうわけです。というようなことを考えておかないと、やっぱりこれからどうするかといったときに、かなり質のいいものをつくらないといかんという気持ちが薄れて、形だけつくっていって、ああしましょう、こうしましょうになっているでしょう。

○佐藤委員：ホール事業の扱いというものをどう見るかというところだと思うのですけども、ホール事業は、現在文京区の定義だと、どちらかというと生涯学習というより文化芸術の分野に入ってきているかと思うのですけども、それでは、文化芸術に全部お任せしていいかというと、私はそんなことはないと思います。

○黒木委員：僕らも意見を言っていいと思う。いいものを見たほうが勉強になるんです。

○佐藤委員：結果的に生涯学習に還元されてくるようないい気付きの場であるわけです。だからわれわれが学んだときにも、最後は大ホールを踏もうじゃないかというかたちでの、ある種プロセスとしてもあるのかなと思うのですけれど、今回の論点からすれば、私は切り離してもいいのかなと思うのですけれども、だた、意識はしておいた方がいいでしょうね。

○黒木委員：僕は、管理委託会社に頼むときの頼み方じゃないかと思うのです。

○佐藤委員：指定管理の内容ですか。

○黒木委員：そうなのです。

○佐藤委員：それはあるかもしれない。

○黒木委員：これをやって下さいっていうからやっちゃうわけよ。やっちゃえばいい、数はちゃんとやっている。

○桝田委員：僕は、大ホールは生涯学習じゃなくて、良い意味で広がっている文化芸術の部分を安く区民に紹介する入り口だと。

○黒木委員：安い必要はない、文京区だったらいいものを出すっていうことにしたらいいと思うんです、絶対に。

○山崎座長：それはなかなかね。

○桝田委員：私はそう理解した、できるだけ接するチャンスを。

○黒木委員：安かろう悪かろうで文京区がやっているよっていうことになるじゃないの。だからこの間の出し物なんか、他の地方の講堂で 6,000 円でやっていた。

○山崎座長：それでは、こういうふうにしましょう、難しいけれどもホールの演目というか、演題というか、そこにも問題がありますよといった提起としてあげておきましょう。どうするかは文化芸術の分科会とも連携を取らないといけないでしょう。とにかく相当課題は出てきて、網羅されているだろうと思いますが、今度は具体的に、われわれが言いっ放しじゃなくて、こういうふうにしたらこの問題をクリアできるだろう、そういう具体的な提言に一つ踏み込んでいきたいと思います。10 分ぐらい時間を取りますから、そこでお書き頂いて、あそこに張ってもらおうと思います。

（休憩）

○山崎座長：皆さん方の協力であそこに出たわけですが、今整理してもらっている間に、一つ事務局から読み上げてみてください。

○事務局：まとまったところから、ピンクのポストイットはこちらのほうで仮見出しを付けたものです。最初の意見が良き区民になることなのだろう、目標例もつくるというかたちで、適切かどうかはともかく啓蒙とか、動機付けだとか、そういったようなことが解決の方向性として必要なのではないか。

それから２つ目の黄色いポストイットは、講座開発ではなく、受講料支援にすれば良いのではないか、受講者への支援という分類をしてみました。

３つ目がコミュニティ系サークルにも支援する。自主学習サークル活性化の支援をする。活動を知らせる。認定自主学習サークルにホームページを与えると書いてあります。これはサークル、団体への支援というふうにしてみました。ですから、これ一つで区民やサークル、団体への支援というまとめ方もあり得ると思います。

それから４つ目が、アカデミー推進課で区民へのオープンな窓口を設置する。自主学習一般相談のデスクコーナーを常設するという意味ですか。一般区民に初期の入門時の相談窓口をつくる。学習相談窓口、サロン形式の設置。学習相談窓口の設置。地域アカデミーに相談できるスペースを置く、可能なら図書館にも。それから重要項目として、区直営で養成をする。財団に委託をしないというかたちで、相談窓口の設置というまとめ方をしてみました。

それからその次の分類が、区から連携、大学への希望、期待を明示する。次が区役所、大学、区民代表との連絡会議、大学の講座に関してということ。それから行政、区民の協働の概念を明確にする。次が職員と区民が一緒に動くことはできないのか。連携、協働、推進というまとめをしてみました。

それから下から２つ目の行ですが、生涯学習司を活用する。次が人材活用策の拡充。過去の人材登録制度、教育委員会の復活。ボランティアの概念をきちんと知る。ビジョンを持ち、長く保ち、変えない。それから次は区は育て場所を与えたら、あとは黙る。管理はほどほどにというかたちで、人材活用というまとめをしてみました。

その次は最後ですが、財団で足りないものは住民主体でつくる支援が必要ではないか。住民主体の運営としました。これは一つにしてもいいのかもしれませんが、今のところは分けてみました。

それから次のところが、アカデミー推進課主催の講座開講、朗読などということでしょうか、その次はまつりの支援、予算、いろいろなものでしょうか。それから縦割りはやめる、区内組織。その次は施設の確保、新開拓に職員が動く。その次が行政担当側の方向性を明示すること。協働

体制の強化。講座設定に関する委員会、会議体を創設する。区の体制の整備というかたちでまとめてみました。

その次は、場所の話で、交流館、地域活動センター、地域アカデミーの性格分けをする。これは真砂市場の空きスペースを活用する。大学、小中学校の施設、教室を使えるようにする、限定期間でも。地域交流センターの活用。区の施設利用窓口の一元化を図る、システム化する。施設職員の資質を冷静に判断すると書いてあります。施設や施設活動というふうにまとめてみました。

その次は生涯学習の目標を年代別に作成、公開する。応募者、区民限定で。

○黒木委員：作品ね、小説だとか、エッセイだとか、研究論文など。

○事務局：小説、エッセイ、研究論文募集の表彰を再開する。

○黒木委員：何々大会。

○事務局：○○大会、発表の場を年計画で組む。学習活性化、学習者のモチベーションのアップとまとめてみました。

その次はきちんと物語の書ける人を担当にする。まちづくりの視点でホールを運営する。ホール事業と生涯学習事業の連携強化。ホールボランティアの育成というかたちで、ホールの運営としてみました。

一番最後の行が社会教育に興味がないなら事務方に撤する、口を出すなということでしょうか。社会教育に関心のある職員の配置をする。職員配置の見直しとまとめました。

それから最後のシートですが、大学、講座、教養から実学へ拠点を定めること。生涯学習講座をともかく集める。啓蒙的な講座、区主体の設定。区が金銭を負担。学習施設に限らず講座をやるところと連携する。これは講座内容の充実としてみました。

今は限られた時間ですから、どういう順番かというのは意識しないでやっていますから、そのまとめはこちらのほうに任せてください。それから誤字はこちらで直しますので、そこはご承認ください。

○事務局：たぶんこれは佐藤委員のご意見かと思うのですが、受講をしてみたいか確認するということでご意見を頂いたのですが、これは具体的には。

○佐藤委員：これは生涯学習の受講者が少ないというのですけど、そもそも受講する気がないという人もいるのではないかなと思うので、そのへんの確認を取った上で母数から外してあげないと、10%しか受けていません、３割ぐらい受ける気が最初からないという人がいると数値が狂っちゃうのではないかなというところです。だからアンケートという。どこでもいいです、捨てちゃってもいいです。

○事務局：一つ項目を立てておこうと思います。

○山崎座長：解決策がこれだけ出てきたわけですが、本来ならば一つ一つ洗い出した項目と対応しているのかどうかというのは、やっていかないと漏れがあるかもしれないかと思いますけど、もう一度、表１の洗い出した課題を眺めてみてください。だいたい対応しているだろうと思いますけれども。

○八木委員：この１番の中で、生涯学習を推進するための図書館の開放が十分でないというご意見があるのですけれども、どういう観点でやると図書館って開放されたことになるのですか。

○山崎座長：理想的にいえば、秋田でやっている 24 時間開放です。

○八木委員：そういうことですか。

○山崎座長：サラリーマンの人たちが夜帰りがけにちょっと寄れるというのが、開いていると一番いいのですけど。

○佐藤委員：例えば読み聞かせのボランティアというのは、名古屋市とか、岐阜市というのがあるんです。そういうふうに図書館に本を借りる以外に出掛けていくという要素を入れてみるのも一つの方法かなと思います。

○黒木委員：それはやっているでしょう、読み聞かせも、子どもに対して。

○八木委員：読み聞かせはやっています。

○佐藤委員：どこでやっているのですか、真砂だけですか。

○黒木委員：いいや、水道端だって、あっちの小石川だって。

○八木委員：全ての図書館で行っていると思います。

○佐藤委員：例えばボランティアの養成講座みたいなものというのは中でやっているのですか、それともサークルが自主的にやっているのですか。つまりそういうふうに分かんないのですよ、われわれも。課長も分かんないのに、私も分からないですよ、だからこういう根本的なことを聞いちゃうのですけれども。

○八木委員：いわゆる情報の一元化的な話になると、まだお書き頂かないといけないのかなということです。ツールも持っていない人がいるので、インターネットに載せただけでは一元化にならなくて、持っていない人はどうしたらいいかということも出てきます。また、文京区らしい生涯学習としていいものが、先ほどおっしゃったような、眠っているものが見つからないかと、文京区ではない組織体、国もやっているかもしれない、都がやっているかもしれない、そのへんをどうやったらつかまえられてという話です。どんどん、どんどん広げていくと、ちょっと失礼な言い方をするかもしれないですけど、真実性というか、それはきちんとした団体で、公がアピールしてもいいのかどうかというところまですそ野を広げることがよいのかと思いまして、どのあたりの情報だったら提供していいのか、そのフィルターをどうしようかという問題があります。

○黒木委員：それは線の引き方が難しいです。例えば地域のアカデミーどこどことか、自主的にやってくださいというのをどんどん流していけば、どんどん取れなくなっちゃう。取ったときにはもう時間的に遅れちゃうとか。だからこの範囲は一つ用意してありますというので線を引かないと、情報はその都度生まれてくるのだから、知らない間に。

○八木委員：どこかで、掘り下げるかは別として、一元化したものを。

○黒木委員：それはあったほうがいいです。

○八木委員：どこかが集めるということを決めておいたほうがいい。

○桝田委員：区だけの情報でいいと思うのです。

○渡辺委員：私もせめて区だけ。

○八木委員：そうでしょうね、まずせめて直轄まででしょうね。

○黒木委員：僕は違う。今第１ステージは区だけでいいですけれども、区と大学や何か。区民というのはもうちょっと広い行き方している。都内全体が生活の場でしょう、あっちも学習できる、こっちも学習できる。そういう人は自分で探すからいいといえばそれまでなのですけどね、最初は。

○桝田委員：基本的にはインターネットのホームページで入り口だけ用意してリンクを張ればいいわけですから、それはね。ただし区の中は少し整備してほしい。

○八木委員：これは、ほかの分科会も同じことで、例えばスポーツでもいろんなスポーツがあるわけです。同じ考え方で、共通に必要とされる分科会でも議論していかなくてはいけないことだと思われます。

○黒木委員：区内の行政絡みのものと、その次は大学絡みのものと。

○八木委員：大学がたくさんあるというのは文京区らしいところですから、まずは大学とはしっかりと。

○黒木委員：あと区内にあるのでは公立高校、あれは都立だからどうなるか分からないけど、あそこだってないことはないと思うのです。

○佐藤委員：例えば消防署の情報というものだって、防災の部分だったら必要かもしれませんし、先ほどお話ししたように病院などはいい情報を出している、保健所もいい情報を出していれば、税務署もいい情報を出しているという。例えばどうしても切れないというのがあれば、公的機関ぐらいは網羅してもいいのではないのかなというのはありますし、私は民間で、変な話よほどカルトじゃない限りは情報を提供しちゃってもいいと思います。その代わり、それは受け手の問題だと思います。だから区とすれば情報を提供するけれど、行った先のところまで責任持ちませんということだけきちっとうたえば、ある程度、さすがにオウム真理教みたいなものは止めたほうがいいと思うのですけれども。

○八木委員：だからまずこの３年間は公的機関でというのはどうですか。10 年後の将来はまた広げましょうと。

○佐藤委員：なるほど。公的機関からまずスタートという。

○黒木委員：それいいですね。

○佐藤委員：ただ、黒木さんが言われたように、私は学校は民間であったとしても入れてもいいと思います、大学とかは。

○黒木委員：そういうきちっとしたところのものはね。

○佐藤委員：専門学校も含めた中で、それは入れてもいいじゃないのかなと思います。

○八木委員：今後の拡大は、そこは３年間でどこまでいくかというのもあるでしょうから。

○黒木委員：別としましてもね。あとは情報で、身近でいえば、どこにサークルがあるのか、何をやっているのか、入れるのかどうかとか、そういうのを。

○桝田委員：サークルで、今何とかいうホームページ。

○佐藤委員：「こらびっと」のホームページね、掲載しづらい。

○渡辺委員：せっかくあるのだから、やっている人がいけないのかよく分からないのですけど。

○桝田委員：両方でしょう。

○黒木委員：見にくいから、入りにくい。

○渡辺委員：せっかくあるから、あれをもっと活用できないかなと思うんですけど。

○黒木委員：あれはもっと誘い込んでやろうとしていますけど、あれはどこの人たちがやっているのでしたかね。

○佐藤委員：あれは区と中小企業経営協会というところがやっているのですが、旭化成の元気 365 とか使っているのですけども使いにくいな。

○黒木委員：もう変えてもいいのではないかなと思う。

○佐藤委員：「Ｂ－なび」ってどう思います？　あれもあれで何か引っ掛かるものあるな。

○黒木委員：やっていますという感じがありますけども。

○山崎座長：情報の問題は非常に難しいですから、今ここで出たように公的機関のところまでに抑えておいたほうが安全だろうと思います。ほかに今眺めてどうですか。

○事務局：こちらの方から感じたところなのですけども、皆さんから頂いた意見のところで、区のほうはどうした方がいいよというご意見はたくさん頂いたと思うのです。体制を整えた方が良いとか、職員の方はどう配置するのが良いとかいうご意見はたくさん頂いたのですけども、ちょっと視点を変えて頂いて、それでは、区民はどうしたらいいのか。やはり今回の計画を区と区民が協働で進めていきましょうというところが一つの大きなところであるので、住民主体という意見もありますけども、区民はどうしたらどううまく回るかというところでご意見を頂ければと思います。

○黒木委員：いろんな区民がいる。そうすると当たり前のことをいえば、議会を通じて方向とか、傾向が出てくるでしょう、それでこういうふうに動いているというのがある。それでお役所がこうやって実施していきましょうというときに、今度は実施部隊が区民との協働でって話し掛けていくでしょう、こっちに区民がいて、議員さんの背中に区民がいて、そうすると行政はどうなるかということになる。行政も区民代表になっていないと、さっきのボランティアの考え方がつながっている。ボランティアだからこれでもいいのだとか、だから協働っていうことがしっかりしないと、投げちゃうこともあるだろうし、自分のほうで抱えて指図しちゃうところもあるでしょうし、だから自主学習じゃなくて、生涯学習に関しては、本当に協働できる体制がほしいなと思います。

○佐藤委員：冷静に考えてみて、私はないと思います。それはなぜかというと、住民自身が自分たちで努力しているというレベルは、もうある程度いっているのではないのかなと思うのです。まず一つは社会教育そのものに興味のない人を、住民の力によって興味を変えていくという方法があると思うのですけど、それって手っ取り早いのはサークルだと思います。

○黒木委員：入れるところはやるからね。

○佐藤委員：となれば、サークルの受け入れるという力がないというのがあった場合については、その人たちが自分たちで勉強するということができていれば、すでにもう私はやっていると思うのです。できないからリーダー養成講座をつくってくださいというような論理になっちゃいます。それからもう一つは、サークルつくりましたとか、いいや、自分たちでサークル立ち上げましょうといっても、今度は借りる場所が分かんないわけです。借りる場所が不明だから、結果的に借りる場所を分かりやすくしてくださいという情報になっちゃいます。自分の自宅でやりましょう、自分の自宅で集まってやっていけばいいのではないですかっていったら、私たちがこういうところで集まっていますよって情報が載せられないわけです。つまり住民の側からすれば、興味のない人を喚起するということぐらいしか今のところできないと思います。ただ、それはもう十分すぎるぐらい私はやっていると思うので、こういうふうに書いたように、どちらかというと行政お願い系のところの項目が増えてしまうのではないのかなって感じがする。

まだもし足りないというのでしたら、逆に行政の方から伺いたいです。このへんもうちょっと努力する価値があるのではないですかということがあれば、私も新しい目線として見たいです。

○八木委員：先ほどの相談窓口の設置という中で、例えば生涯学習司とか、資格は置いておいても、同じ目線に立って相談に乗るというのも一つの方法かもしれないです。自分のサークルと横の連携はぜひ住民の皆さんも取れるところはとってみませんかとか、同じサークルだったら、一つだと難しいけども、幾つか集まると共同して同じ目的でできるのではないかということがあれば、また横の連携もあるだろうと。だから住民の皆さんもまったくないというよりは、何かあるんじゃないかなとは思うのですけども。

○佐藤委員：これは文京の例じゃないのですけど、こういうのがあります。ファミリーレストランに昼に行くと、子育てママがズラーッとそろって、そこで話をしているというのがあるのです。あれは絶対施設がないからここに来ているのだろうなって感じがあると思うのですけれども、そういう話し合う例えばスペースみたいなものがあれば、もっともっと平場の人たちが生涯学習であるとか、そういうコミュニティのところに深く入っていけるのではないのかなと思うのですけれども、そのへんがまた借り方がよく分からないとか、どこに何があるか分からないというようなことで引っ掛かっちゃっている部分があるのかなと、講演なんかでもいいのですけどね。

○八木委員：いろんなところがあるのでしょうけど、今の視点は住民の方同士の結び付きという観点から何かないかなということです。例えば人材の発掘という点ですけども、行政が持っているネットワークで人材発掘というのは非常にある意味難しいです。だけど皆さんが、ここのお年寄りは企業のこういうところに勤めていたので、この知識がすごくありますよと、研究所に勤めていたのでこういう知識が非常にあるので、講演頼むといいのではないですかという情報を例えば相談窓口に持ってきて頂ければ、それはすぐ活用しないかもしれないけども、ストックをしておいて、いつか、こういう人がいますよとか。

○渡辺委員：人材バンクみたいな。

○佐藤委員：そうですね、確かにそれはそうかもしれない。

○八木委員：行政のネットワークもなくはないのでしょうけども、住民の皆さんが日常生活で持っているネットワークの広さに比べれば限定されます。だからいろいろあるのではないかなと思われます。

○山崎座長：そのためにはやっぱり人材バンクみたいなものに登録して、入ることが必要になります。

○黒木委員：結果的にはそういうことができるといいですけど、ただ、登録してくださいって登録させちゃうと、過去のタイトルだけになっちゃうかもしれないでしょう。僕らは幾つもあるサークルの中で話を聞き合って、いい先生、実際に来てもらうのです。そういうのを聞いて、こういう人、こういう人って、言葉悪いけどお互いに使いっこしていると、話を聞いていると、こういうふうにしてね。

○八木委員：だからそのいい先生だという情報からでもいいのです。

○黒木委員：そうなのです、先生からまた先生を紹介してもらうこともあります。

○八木委員：あるいはサークルでつかったこの先生とてもいいですからということを登録して頂くと、そのほかのまったくコネがないほかの団体が使えることにもなる。

○黒木委員：難しいのは、私の仲間、友達だっていっぱいいます。いろいろ研究したり、勉強したえらい人がいても連れて来られないです。話ができる人と研究できる人と別ですから、そういう意味でちょっと危険だけど自分のサークルで話してもらおうかなとかね。

○佐藤委員：住民ができることで、もしあるとすれば、もうちょっとボランティアの比率を上げていくということはできるかもしれないですね。今例えば施設の部分について、地域アカデミーにボランティアってあまりいないと思うのです。例えば地域アカデミーにボランティアとして入っていって、草花を植えてみるとか、中に生け花を植えてみるというような施設ボランティアをもうちょっと積極的に住民のほうでかかわっていくと、その施設がすごく居心地がよくなっていくということはあるのではないのかな、それはひょっとしたらまだ出てなかったものかもしれないです。施設ボランティアをやるというのは必要かもしれないですし、例えば自転車が乱れて並んでいたら、きちんと並べていくという、一瞬見るとつまんないことかもしれないですけど、そういうところからみんなでこの施設を自分たちの力で守っていこうということができるというのはあるかもしれないです。

○桝田委員：そういう局面と、施設の担当者が変わったら雰囲気がガラッと。

○黒木委員：そうなのだ、人が替わるとやり方が変わるというのはあるだろうから、ばらつくのはしょうがない。

○桝田委員：この間行きましたけども、心地よく待遇して頂きました。

○黒木委員：だから長い目で見ているとそういうことでどこの施設を使うかという流れが、だから込むところは込む。

○桝田委員：確かに住民側も施設側に自分の要求をするという人もいますので、それはやっぱりね。

○黒木委員：だけどこのごろだいぶん言うようになったね、現場で、使用している人たちが。

○桝田委員：やっぱり皆さんが平等に使えるという施設があるから、そこはやっぱり歯止めしないといかんです、少なくとも全然違う。

○八木委員：区民と行政の役割分担というのは、グラデーションがあると思うのです。ものによって違って、区が 100％持ったほうがいいものと、それからだんだんその割合が変わってきて、住民の方が 100％持ったほうがいいもの、こういう状態でクロスしていく。この仕事はこのへんかなとか、今はこうだけど将来こうしようとか、そういう面ができてくると円滑に進むのかもしれないですね。何でもかんでもあっち、こっち、あるいはちょうどだから半分というわけでもたぶんないので、そこの概念の整理が難しいと思うのですけども。

○佐藤委員：個人情報とか、お金の収受というところについては、確かに区民は入っていかないほうがいいと思うのです。逆に言うとソフトの開発みたいなものは、むしろ行政が入っていかないほうがいいのではないのかなっていう感じはしますね。行政として伝えたいということがあると思うけれども、例えば今のお話にあったように、５：５ぐらいの比率にしてもいいのかなというのはあるかもしれないですね。

○黒木委員：僕の文京区のアカデミーのイメージで言うと、やっぱりあるレベルを何パーセント確保しようということは、行政が全体見渡してやらないと、イージーなところへ全部流れちゃうという心配があるんです。だからここまで 100％任せて、ここは譲れないという、区は持たなければ駄目です、金と同時に。

○八木委員：それはもちろんです。ですから、施設の数も有限ですし、お金も人も有限なので、どうやって割り振るかということを考えなくてはいけないですね。それはどうしても譲れないところ、できればいいですけど、できないとか、そういうことは生じてしまいます。ただ、工夫によってはそれほど費用がかからないのにこんないいことができるということも。

○黒木委員：つくれますよね、そういう世界がね。

○八木委員：場合によっては十分あり得ると思います。

○黒木委員：そういう世界つくれます。

○桝田委員：確かに相談窓口の設置は方向としていいのですけど、相談にもいろいろありまして。

○黒木委員：これはやっぱり勉強して分担しなきゃいけないです、あるいは専門の部分とか。

○山崎座長：一つ欠けているのは、施設を使って、自主グループで活動していて事故が起きた場合、これの保険の問題、これをどうするかという問題があるのではないですか。

○黒木委員：スポーツのほうは考えてますでしょう？

○山崎座長：多分そうだろうと思うのですけど、それはこっちだってないわけじゃないだろうと思うのです。何か器物を壊してしまったとか、いろいろ。

○黒木委員：私たちは保険掛けていますよ。

○山崎座長：だからその問題、だから掛けられるグループと掛けられないグループが。

○黒木委員：そういうことを知らないグループも。

○山崎座長：あるだろうし、そのへんのところがちょっと気になる点なのです。

○桝田委員：サポーターには保険を掛けてもらって、本人の傷害の問題もありますし、機器の破損問題まで掛けています。

○山崎座長：鴎外記念室が図書館から離れて、一種の外郭団体みたいになったときに、実は展示室の薫蒸の問題でアレルギーが問題になった。それでこれは労働基準局に訴えられた。訴えられたのは、私が会長をやっているものだから、私が訴えられる責任者。こういう問題が出てきたときに。

○黒木委員：それは施設利用、機材の利用で、利用する側との約束ができているでしょう、文京区の場合は。

○山崎座長：それがなかなかね、そうは言ったってね。

○黒木委員：それは感情的なものになりますけども。

○山崎座長：ことが起こって、そういうふうに訴えられたなんてことになるとね、私自身がそれは体験しているものですから、そういう話をしたらスポーツのほうでやっぱり出たのです。

○桝田委員：学校を借りられないという？

○山崎座長：学校を、そう。

○桝田委員：そういうことですよね。

○黒木委員：借りられないのだよね、そういうことで貸してくれないのだよね。だからそれやっちゃうと、さっきの施設管理の担当者じゃないけど、頑張って駄目だ、駄目だって、あれは駄目だ、これは駄目ってなる。

○山崎座長：そうなっちゃうのですよね。だから学校側は完全にこうなっちゃって。

○黒木委員：だからそこは住民にも理解してもらわないとね。

○桝田委員：そういうことです。

○山崎座長：生涯学習のときに何かバックアップ体制というか、それこそ、してやらないと難しい問題が出て来るかもしれない。

○黒木委員：僕らはサークルの自主学習については保険を掛けてもらっています。

○山崎座長：なるほど、それは立派ですね。

○佐藤委員：保険の窓口というのはアカデミーでやっているのですか、ボランティア保険については。

○八木委員：ボランティア保険は総務課でやっています。

○黒木委員：総務課か。

○八木委員：ボランティア保険というのは、趣旨としては、私の理解では、指導者ができる立場の人がいて、指導者の過失によりけがが発生した場合には指導者責任を問われるということなのです。ですから、そういった場合の保障をやろうと、要するに引率して行ったのに、そこで目が届かなかったために何か事故が起こった場合というのが保険の趣旨だったと思っていますので、ある意味自己責任のところも当然あるわけですよね、参加者ご自身で、ちょっと言い方悪いかもしれませんけども、ご自身で招いたおけがまでは、建物に瑕疵がなければそれは自己責任の分野でしょうけれども、そのときにリーダー的な方がいらっしゃって、疲れているのにずっと歩いていたときに起こったとかいうことになると、ちょっと変なかたちになる可能性ありますので、それについては保険の適用があるという、そういう趣旨のボランティア保険だったと思います。

○黒木委員：そういうことも、サークルの中で勉強会しなきゃなんないですよ。

○桝田委員：受講者が外に出て行くときには保険は掛かってないよね。

○八木委員：そういう場合は受講者が自費で保険を掛けるのです。ハイキングに行きますというときには、事業保険ということで、そういう場合はまた別。それはそれぞれ必要だと思ったら、そういうことを前もって契約をしておいて、保険を掛ける。ただ、実費は相当分、保険代といっても 50 円とか。

○黒木委員：取っていますね。

○八木委員：そんな感じで頂いて掛けているということはあります。

○山崎座長：それが徹底しているかどうかです。

○黒木委員：それはあります、知らない人がいます、やっぱり情報の話。

○佐藤委員：だから社会教育関係団体については、保険加入していることが更新の条件にするぐらいのことはやってもいいのではないのかなって気はしますね。だからその窓口をどこにするのかと思って、福祉系は社会福祉協議会に行けばやってくれるのですよ、500 円払うと１年間やってくれるので、それはアカデミーの窓口でやるのか、それともこの推進課の窓口でやるのか分かんないですけど。

○黒木委員：年１回か何か呼びかけがあったのかな、忘れちゃった。

○桝田委員：６月に、もうじきあります。

○佐藤委員：ずっと行政が支援してくれていた時代もあったのですけど、今は別にそこは支援する必要はまったくないと思うので、むしろ自分で払ったほうがいいと思うので。

○桝田委員：知らないのですよね。

○黒木委員：知らないですよね。

○桝田委員：マニュアルがあったり、テキストがあったり、何があればいいんだけども、聞かないと分かんない。先ほどの広報と一緒ですけどね。どっちがいい悪いとしたら、整えとくというのが重要だと思います。

○山崎座長：こういう時代ですから、うちなんかも臨床心理の生徒たちをピアサポーターで外へ出すときに全部保険を掛ける。つまり生徒と遊んでいて何か事故起こしたらというかたちで。

○黒木委員：そうですね。

○山崎座長：今もう全部そう。

○桝田委員：傷害保険の関係なり。

○八木委員：善意でやっていることが、結果によっては責任を問われるということですね。

○黒木委員：何か起きるときありますからね。

○山崎座長：どうですか、もうだいたい出尽くしましたか。もう一度整理してもらって、この次のときに、足りないところを足しながら、次のパート３のところへと行けるのではないかと思いますけども、いい具合に進んでいると思います。いい時間にはなっていますけれども、あと５分ぐらい、どうしても言っておきたいということがあれば言っておいてください。

○佐藤委員：人材活用って、非常にあちらで見ると課題が大きいのですけども、解決策がそんなに出てないのですけども、こういうところは難しいのですか、なかなか解決策って出にくいのですか。

○黒木委員：どういう面で活用したいかという、そっちがないと、具体策。

○佐藤委員：つまり受け入れ先のところの要望が分かんないうちは、なかなかビジョンとして立てにくいものがあるというところですか。

○黒木委員：だからさっきのように相談なんてことになれば、活用とか、育成ということがイメージしやすくなるわけ。

○佐藤委員：あと学習メニューもあれだけドカンといろいろ出たのに。

○黒木委員：今回は出てない。

○佐藤委員：こっちは出ないですよね。

○黒木委員：難しい。

○佐藤委員：そこって何だろうなと思って、解決できないですか、こんなに付いちゃうのですかね、学習メニューなんかにしても。

○黒木委員：僕は思うのだけれども、さっき八木委員がおっしゃった、かなりを行政で考える分、かなりを住民にやってもらう。このうちのこういうところは役所でやるというものを示せば、こういう講座を来年度は使うのだとなれば、講座の中身について、ボンボン、ボンボン出てくる。今講座をどうしようというだけでは、ちょっと出しにくい。

○佐藤委員：ひょっとしたら学習メニューの中身ってところ、あれを見ていると、コンテンツのことが書かれてあるとか、××が足らないみたいなところがいろいろあると思うのですけども、これってひょっとしたらそちら側でいうと、学習相談というか、相談窓口の充実みたいなところで全部対応し切っちゃうのかもしれないです。だからここの個別については、相談を受けてもらった上で、例えば区として用意できなかったら、こっちのカルチャーセンターにあるのでよかったら受けてみませんかとか、このサークルでどうですかというかたちでのさばきをやるから。

○黒木委員：そうすると文京区の意味がなくなっちゃう。

○佐藤委員：それでもいいじゃないですか、窓口を準備したわけですから。あと今言われたように、文京区として絶対にこれから入門する人たちの講座は準備しなければならないという、そういうベーシックの部分とか、この間八木委員がずっとおっしゃられていたのですけども、初心者というか、これから勉強する人たちのところも絶対忘れないようにしたいというところだと思うので。

○黒木委員：だから勉強する人たちのためには何パーセントで、これまで中途半端に勉強しちゃった人が再確認のために勉強するのが何パーセントとか、新しいものを聞きたい人のためには何パーセントと。

○山崎座長：そこに私が書いたのだけど、まず基本的な、例えば啓蒙的な、区がとにかくお金出して、そういう講座がまずなければならないだろうし、それから社会経験を積んだ人たちがもう少し専門的な話をちょっと聞きたいのだという。

○黒木委員：そうそう、あります。

○山崎座長：そういう講座がやっぱりなければいけない。そうすると大学との連携とかで、こんなものをつくってくれないかと。大学でやらせると教養的なものとごちゃ混ぜになって入ってくるんですが。

○黒木委員：ただ、出してくれというと。

○山崎座長：ただ、講座を組んでくださいってやるとそうなっちゃう。そうじゃなくて、例えば跡見なら跡見にはこういう教養講座つくってください。しかし東洋大学にはもう少し実学的なこういう講座を設定してくださいというふうにやっていって、グレードを違えていくと、少し学習メニューが、今佐藤さんが言ったところは、もう少し整合性を持ってくるのかな。

○佐藤委員：区の責務とすると、そういう体系組みみたいなところが区としての考え方として一番持つところかもしれないですね、大学にはこういう部分を委託したいのだ、住民の方には、われわれ区とすればここことやりたいんだみたいなところをうまく体系化していくと。

○八木委員：そのためには大学側が何ができますということを分かってないと、やみくもにいってもそういう分野はあまり得意ではありませんということになると難しいですね。

○山崎座長：それは区長と大学の学長会議はちゃんとやっているのです。おそらくそこで出た問題が区の行政のほうへ流れていかないのだろうと思うのです。大学のほうも学長だけが出ているものだから、学長が分かっていても一般の教員は出てこない。それで実は先週、大学はどういう教育をしているかって、配ってくださったでしょう。例えば私の大学がいかにダメかという資料を配って、そうしたら学長から「山崎さん、あんた簡単にそんなこと言うけどね、引き受けることになると大変なお金と人材がいるのです」って、学長は怒っていたのです。だけどうちは図書館しかやってないじゃないかと、文京区へ出てきたわけだから、東京の大学になっていくなら応分の協力はしていかなければならないという話はしたのです。そういう中で、もう少し連携が取れていいのではないかなという感じを持っています。

○黒木委員：そうですね。

○渡辺委員：何かもう少しお願いをしてもいいのではないでしょうか。

○山崎座長：そうだと思うのです、逆にアンケートとって、あなたの大学は何が得意ですか、何が特色ですかって聞いて、その特色のところでお願いする。

○佐藤委員：情報交換の場がもうちょっと。

○八木委員：あるいはあそこに書いてあるように、大学に何を求めたいかって、他にあったかなと思ったのですけども。

○山崎座長：そうですね、こちらから。

○桝田委員：現状では東洋大学でも毎年外交官で行った人がシリーズを変えて連続してやっているのです、連携にはなっていませんけども、向こうの生涯学習で。拓殖大学はパソコンだとか。本当はそういうことの情報だけでも提供してやるといえば連携になるのですけどね。

○佐藤委員：例えばそのへんも区の側からもう少し積極的に要請していいのかなと思う。拓大ってアジア文化にものすごく強いじゃないですか、何遍かお願いしたのですけども、やっぱり違うのだっていって断られちゃうのです。

○桝田委員：といいながら大学でやっているのですよ。そのときには連携にしてもらったらいい。

○八木委員：機関対機関は行政の担当分野だろうなと思います。

○桝田委員：それと区のほうでも出前講座ってあるでしょう。

○八木委員：ございます。

○桝田委員：どのぐらいの実績あるかどうかっていうのはあるのですけど、本当はそういうのを区民が知る場をつくってもいいのですけど、それに手を挙げる人がいないですよね。

○山崎座長：この問題はあまり突っ込んでいくとやぶ蛇になりそうなので、そろそろ時間が。行政のほうの一つまとめとして、次回の件、ちょっとお願いします。

○事務局：今回頂きましたさまざまなご意見につきましては、再度私どものほうで一度まとめさせて頂きまして、次回ご提案させて頂ければと考えてございます。第３回分科会のスケジュール

には、6月22日の6時半からです。それから席上に配付いたしました意見シートでごすが、5月25日までに感想、意見、気付いたことがございましたら、ご記入頂きまして、ご送付頂ければと思いますので、よろしくお願いいたします。事務局からの説明は以上でございます。

○山崎座長：それでは、長時間ありがとうございました。